

9 「子どもの教育」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は 3.18 点であり、基準年調査より 0.08 点上昇しています。

t 検定を行った結果、基準年調査に比べて有意に上昇していることから、当該分野の実感は上昇していると考えられます。

イ 属性別の状況

○ 令和 4 年県民意識調査の状況

- ・ 年代別では、「50～59 歳」が低く、「70 歳以上」が高くなりました。
- ・ 職業別では、「常用雇用者」が低く、「家族従業者」が高くなりました。
- ・ 子の人数別では、「子どもはいない」が低く、「2 人」が高くなりました。

○ 令和 4 年県民意識調査と基準年調査との比較

基準年調査と比較して有意に変化した属性は表 13 のとおりでした。

表 13 「子どもの教育」の実感において有意な変化があった属性と基準年差

属性		H31	R 4	R 4-H31
県計		3.10	3.18	0.08
性別	男性	3.08	3.17	0.09
年代	20～29 歳	2.92	3.19	0.27
	60～69 歳	2.95	3.09	0.14
子の数	2 人	3.14	3.24	0.10
居住年数	10 年未満	2.78	3.26	0.48
	20 年以上	3.10	3.16	0.06
広域振興圏	県北広域振興圏	3.07	3.27	0.20

② 分野別実感が上昇した要因

- ・ 県民意識調査の結果、実感が有意に上昇した属性は、表 13 のとおり幅広く存在しており、特徴的な属性は確認できませんでした。
- ・ 補足調査で把握している「分野別実感の回答理由」については、実感が上昇した人の回答理由は以下のとおりでした。
 - (ア) 人間性、社会性を育むための教育内容
 - (イ) 学力を育む教育内容
 - (ウ) 健やかな体を育む教育内容(体育、部活動の内容など)
- ・ 以上を踏まえ、当該分野の実感が上昇した要因は、「人間性、社会性を育むための教育内容」、「学力を育む教育内容」、「健やかな体を育む教育内容(体育、部活動の内容など)」であると推測されます。

③ 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

- ・ 平成 28 年から令和 4 年までの県民意識調査で、一貫して高値（4 点以上）で推移している属性はなく、低値（3 点未満）で推移している属性は表 14 のとおりでした。

○ 子どもはいない

補足調査結果で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因として選択された項目」において、「子どもはいない」の回答者が「あまり感じない・感じない」と回答した項目から、以下の要因が推測されます。

- (ア) 人間性、社会性を育むための教育

- (イ) わからない（身近に子どもがいない、子育てにかかわっていないなど）
- (ウ) 学力を育む教育内容不登校やいじめなどへの対応
- (エ) 不登校やいじめなどへの対応
- (オ) 図書館や科学館などの充実

表 13 「子どもの教育」の実感において低値で推移している属性

属性		H28	H29	H30	H31	R 2	R 3	R 4
子の数	子どもは少ない	2.96	2.94	2.92	2.84	2.80	2.98	2.96